月刊スクールアメニティ　1985年12月15日創刊　2022年4月20日 発行（毎月1回20日発行）　第37巻第5号（通巻434号）　ISSN 0919-9632

School Amenity

5
Vol.37/No.434
2022
voi-x
（一社）まなびやづくり研究所 会誌

New Face21

小学校と特別支援学校を一体整備、新都心に建つ６階建ての学校施設

神戸市立灘の浜小学校・灘さくら支援学校（兵庫県）

シリーズ　特別支援学校の現在　第２回

新校舎の完成とともに校名も変更、西宮市の特別支援教育の中心を担う新たなスタート

西宮市立西宮支援学校（兵庫県）

学校施設整備最前線

小中の連携を進める共用空間を整備　中学校区で取り組む小中連携教育の拠点

苫小牧市立苫小牧東小学校・苫小牧東中学校（北海道）

LIFE-LONG LEARNING SPACE
生涯学習空間

大海原を背に北西側からの校舎・体育館全景。左のブルーが中学校で、右のオレンジが小学校。それぞれの昇降口前には屋根が架かり、グラウンドに面する北側は管理諸室、特別支援学級、特別教室などが配置されている（上：株式会社苫小牧民報社提供）。小学校理科室。奥の収納は壁に埋め込まれている（右下）。校舎中央で３教室分のスペースを多目的室として整備。小中の児童生徒・教職員、みんな交わる場となっている（左下）

学校施設整備最前線

小中の連携を進める共用空間を整備
中学校区で取り組む小中連携教育の拠点

苫小牧市立
苫小牧東小学校・苫小牧東中学校
（北海道）

北海道苫小牧市は市中心部の苫小牧東小学校と苫小牧東中学校の施設を改築、同市初となる併設型の施設を整備した。小学校と中学校の間に共用エリアがゾーニングされた新校舎で２校の活動が始まったのは2020（令和２）年８月。中学校区の１中２小で、一体型施設を活かした小中連携教育が進められている。

校舎南西側（小学校側）外観。面しているのは６学年の普通教室で、手前側は駐車場を整備。中央は給食搬入用のプラットフォームでその両側に小中それぞれの出入口がある（左上）。小学校特別支援学級のプレイルーム（右上）。小学校の通級指導教室（右下）。中学校の玄関ホールと昇降口、柱や腰壁を木で仕上げ、中庭を背にした明るい場所（左下）

施設の課題解決と小中連携教育の深化を目指す

苫小牧東小学校は創立1918（大正７）年とその歴史は市内でも有数の小学校なのだが、多くの児童の学びと生活の場となった施設は、1953（昭和38）年築の校舎で補強ができないと診断されるなど、耐震性能や老朽度合が課題となっていた。加えて、市役所のほか警察署をはじめとする行政機関や市民会館・文化会館などの公共施設も集まる市の中心部に位置し、ドーナツ化現象による児童数の減少も長期的に続いている。

苫小牧東中学校は小学校から直線距離で東におよそ300m。北に１区画挟んで市役所という場所にあり、開校は1947（昭和22）年。2022（令和４）年度は74年目となる市内で最も歴史ある中学校である。1961（昭和36）年につくられた校舎などの施設は、こちらも耐震性能や老朽化の課題を抱えていた。

施設において２校が同様の課題を抱えていたこと、苫小牧東中学校の校地の広さに余裕があること（後述）、そして、若草小学校を含めた中学校区内の３校が小中連携教育の実践校として文部科学省や苫小牧市教育委員会に指定されてきた。そこで、そのさらなる推進も念頭に、苫小牧市教育委員会は「苫小牧市立小中学校規模適正化地域プラン（平成26年11月策定）」にて、苫小牧東中学校の校地に小中併設校の建設を示した。

安全安心を踏まえ、小中の交わりを進めるための施設計画

2017（平成29）年８月に発表された「苫小牧東小学校及び苫小牧東中学校改築計画（案）」によると、苫小牧東中学校の校地は台形と長方形を組み合わせたような形状で、施設は市役所に近い北西側にＬ字型の３階建て校舎と体育館、テニスコートなどが寄せて配置されていた。グラウンドが南側で、同市のハザードマップ（令和４年３月作成版）によると港も近く海岸線までおよそ500mの校地周辺は最大で2.0～3.0mの津波のおそれがあるとされている。そのため新校舎の防災備蓄倉庫は３階に整備された。面積にしておよそ47,000㎡の校地は、新しい施設を整備した現在でも、小学校用として200mトラック、中学校用として300mトラックを同時にとることができるグラウンドを確保でき、合計すれば市内最大規模。特色の１つといえ、工事中も中学校は既存施設を活用しながら仮設校舎を使用しない施設整備が行われた。

新しい施設は、校地の南側に小学校と中学校の校舎・体育館を計画。

中学校普通教室。廊下側にロッカー、背面にはコート掛けもつくり付けられ、教材提示用の電子黒板は可動式のため室外でも使える(左上)。中庭に面する多目的ホールは、作品展示スペースにも利用できる(右上)。小中それぞれの校舎中央で通風や採光に機能する中庭。共用エリアの奥まった廊下にハイサイドライトからの光が降る(右下)。小学校はオレンジ、中学校はブルーでデザインされたサイン(左下)

グラウンドを広くとることのできる東側に中学校、西側を小学校とする配置で、校舎だけでなく門も東西にそれぞれ設けて登下校の動線から分けることもできるように考えられたが、きょうだいや、顔を知っている中学生と小学生は一緒に登校し、それぞれの昇降口まで向かう。校舎の北側につくられた昇降口はグラウンドとの行き来を容易とし、上階の職員室でその様子を目視できる。門からのアプローチでは児童会・生徒会合同のあいさつ運動も行われる。

改築計画案は、市の中心市街地再生の取組などを踏まえて小中ともに12学級で計画、加えて多様な活動に使えて教室にも転用できる３教室を確保することが考えられた。特別教室、管理諸室なども小中それぞれに整備するため小学校と中学校の施設規模が同程度となり、小中ともに採光性と通風を考慮した中庭を校舎中央に置き、囲むように各室を配置する左右対称的な校舎のつくりが考えられた。そして小中の連携・交流活動を促進するための共用スペースを施設中央に置く計画である。

小中連携・感染症対策を踏まえた活動など多様に使える共用エリア

完成した新校舎は白を基調とした外観で、小学校・中学校ともに３階建て。普通教室は南側の各階（小学校は各階２学年、中学校は各階１学年）に多目的室１室を加えた５教室が用意されている。教室はじめ日常的に活用される場所は床や壁など空間の一部が木質化されているが、小学校は「東小の子は太陽の子」という学校教育目標から、太陽、オレンジをコンセプトにサインなどがデザインされている。対して中学校のデザインは海、校章に使われているブルーがコンセプト、細部に違いを見ることができる（共用スペースはグリーンでデザインされた）。

2021（令和３）年度の小学校は各学年単学級、中学校は３学級編成のため、クラスルームに使われていない教室は、少人数指導や小学校の英語（イングリッシュルーム）、教職員の研修室などに活用されていた。教室前、特に中庭に面する一帯は多目的スペースと位置付けられて、学年集会などの活動を考えてつくられたが、現在は感染症対策を優先せざるを得ないという。また、特別支援学級は玄関を入った右側に小中とも教室やプレイルーム、通級指導教室などが整備された。北側になるが、保健室が隣接している。

管理諸室が２階、特別教室を各階の北側に配置した新校舎は、中央に共用スペースが設けられている。南側が普通教室、北側が管理諸室（２

小学校音楽室は、授業以外に地域の児童も参加する「東小ブラスバンド同好会」の練習場所にもなる（左上）。校舎３階中央の図書室。カウンターを中央に、両側に小中それぞれで配架されているがどちらも利用できる（右上）。２階共用スペースの多目的教室。３教室という広さを活かし、密を避けての授業参観が行われる前の状態（右下）。昇降口横の技術室。授業では端末を活用しているが、今や授業に欠かせない道具になっているという（左下）

階）に挟まれる位置関係で、１階に配膳室と公務補室（作業室）、２階は多目的教室や会議室、３階が図書室（隣接するコンピュータ教室はそれぞれに）となっている。中でも多様に使われているのが２階の各室だ。職員室から続く各室は、小中合同の打ち合わせやバックヤード（控室）としての活用ができる。３教室分の広さを可動間仕切りで３分割することができる多目的室は、学年・異学年の児童生徒、小中の教職員などで集まっての活動のほか、小学校６年生の中学校１日体験入学や授業参観の場所としても活用されている。小学校・中学校どちら側も扉で仕切られていることから、感染症対策としても効果的な環境にあるという。

そして２つある体育館は、南側の駐車場からアクセスしやすいように出入口が設けられるとともに、LANや電話・テレビなどの通信環境への備えもされている。プールはつくられず、小学生は市内のスポーツ施設を使用する。

１中２小の小中連携教育を深める

最後に、苫小牧東中学校区での若草小学校を含めた小中連携教育の取組を見る。３校の校長・教頭で組織される経営委員会を筆頭とする「苫小牧東中学校区学校教育力向上エリア会議」を設置して、15歳の子ども像「気付き考え主体的に学ぶことができる15歳」を共有。全教員が学力向上・道徳教育・生徒指導・特別支援の４部会のいずれかに所属して９年間で育む小中共通目標

- 基礎的基本的な学習内容を習得させ、それを活用して様々な課題を解決する児童・生徒の育成
- 人権尊重の精神のもと、自他共に大切にし、より良い社会を築こうとする児童・生徒の育成
- 基本的な生活習慣を身に付けさせ、心身共に健康で、最後までやり遂げる児童・生徒の育成

に挑んでいる。例えば、学力向上部会では小中の教員が協働で学習指導案を検討し、乗り入れ授業を実践。保護者に公開もした。夏休みに行われる学習サポートでは、小学生を中学校の教員や中学生（卒業生）が指導・支援する、中学生を小学校の教員が指導するなど、学力向上にとどまらない気付きや実りを得ることのできる取組がされてきた。また、新校舎が完成する2020年度から苫小牧東中学校は制服を一新するとともに、女子生徒はスカートとスラックスを選択できるようにした（両方購入も可）。３校の一体感を育むため、

体育館も小中それぞれにつくられた。LANやテレビ端子のほか地域開放などを考慮して更衣室などとともに多機能トイレも整備されている(左上)。トイレはすべて洋式便器。市内全校で移行しているという(右上)。苫小牧東中学校区３校のコミュニケーションマークをつくって一体感を醸成する(右下)。グラウンド。奥に中学校の旧校舎が建っていた(左下：苫小牧市立苫小牧東中学校提供)

新たに中学校区としてのコミュニケーションマークを作成、バッジの着用や配布文書への添付なども行っているという。苫小牧東小学校の柴田知巳校長は「中学校区として小中連携教育構想を定めて取り組んでいる。感染症対策に左右されることもあるので定期的･継続的は難しいが、３校での交流の機会は多くつくっている」と話す。計画時から関わってきた苫小牧東中学校の五十嵐昭広校長は、「夢を持って一体型施設の整備に取り組んできた。(感染症対策も踏まえながら) 行事で小学生に中学生を見る機会をつくると、自分が15歳で目指す姿に触発されているのが分かる。６年生からの数年は成長のスピードが驚くほど速く、１年で心も体も大きく変わる。１つ上だった６年生の中学校での成長に（５年生として６年生を見ていた今の）６年生が驚いて、早く進学したいと思うようになる」と、中１ギャップ解消と小中連携の意味について話してくれた。

なお苫小牧市では現在、苫小牧東小学校の旧校舎の場所で（仮称）苫小牧市民ホールの整備計画をPFI方式で進めている。

施 設 概 要［2021（令和３）年５月現在］

所 在 地：北海道苫小牧市旭町一丁目７-10
用途地域：市街化区域、第一種住居地域
敷地面積：47,164.73㎡
延床面積：13,711㎡
工事期間：2019年７月～2020年７月（校舎）
総 工 費：約38億6,000万円
交　　通：JR室蘭本線「苫小牧」駅より徒歩約20分

苫小牧東小学校
校　　長：柴田 知巳
学校ＨＰ：https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/gakko/tomahigashi-es/
電　　話：0144-32-6231
児 童 数：187名（うち、特別支援学級15名）
学 級 数：９（うち、特別支援学級３）

苫小牧東中学校
校　　長：五十嵐 昭広
学校ＨＰ：https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/gakko/tomahigashi-jhs/
電　　話：0144-32-5231
生 徒 数：262名（うち、特別支援学級15名）
学 級 数：11（うち、特別支援学級２）

※編集協力：苫小牧市教育委員会／苫小牧市立苫小牧東中学校／苫小牧市立苫小牧東小学校

記事は2021（令和３）年度に取材、お話を伺った内容です。